○島津三郎　とあるは茂久の實父にて久光と云ふ。有名の中將齊彬の弟なり從四位上中將に叙せられ和泉守大隅守に任ず。

○松平陸奥守　とあるは正四位上中將伊達慶邦。領知六十二萬五千六百石。居城奥州仙臺。

○伊達遠江守　とあるは從四位侍從伊達宗徳。史上に多く現るゝは父少將宗城にて隱居の後に春山と號せり。仙臺の支流にて居城伊豫宇和島。領知十萬石。

○細川越中守　とあるは從四位上中將細川慶順。領知五十四萬石。居城肥後熊本。其兄弟に長岡澄之助護久同良之助護美の二人あり有名なる公子なりき。

○松平美濃守　とあるは從四位宰相黑田齊博。島津より養子に來り從三位宰

相齊興(中將齊彬の父)の叔父に當る人なり有名の藩主なりき。領知五十二萬石餘。居城筑前國福岡。

○松平安藝守　とあるは從四位上少將淺野茂長。領知四十二萬六千石餘。居城藝州廣島。

○松平大膳大夫　とあるは毛利慶親にして長門守に任ぜしは嫡子同定廣なり後に元徳と稱せしは此人なり領知三十六萬九千石餘。居城長門國萩。幕末には周防國山口に移れり。

○松平肥前守　とあるは從四位侍從鍋島茂實。父は閑叟(從四位中將齊正)と號し名君の聞え高き人なり領知三十五萬七千石餘。居城肥前國佐賀。

○松平相摸守　とあるは從四位上中將池田慶徳。家系は池田輝政より出づれ

ども家祖は德川家康の孫なれば德川の一門に準ぜり。領地二十二萬五千石。居城因州鳥取。

○松平備前守　とあるは從四位少將池田茂政なり。池田勝入齋信輝の末に當る。領知三十一萬五千石居城備前國岡山。

○藤堂和泉守　とあるは從四位上中將藤堂高猷。此家は高虎以來德川家の關係厚く外藩なれども譜代大名と同一なりき。領知三十二萬三千九百五十石居城勢州津。戊辰の時に伏見にて裏切を爲し又官軍の先鋒となり錦旗を捧げて東下す頗る德川人士を激せしめたり。

○松平阿波守　とあるは正四位上宰相蜂須賀齊裕。領地二十五萬七千九百石。餘居城阿州德島。嫡子從四位上少將淡路守茂韶は近時內閣大臣に任ぜし人なり。

○松平土佐守　とあるは從四位少將山內豐範。父を容堂と號す。從四位上少將豐信。近世史上有名なる人なり。領知二十四萬二千石居城土佐國高知。

○有馬中務大輔　とあるは從四位中將有馬慶賴。領知二十一萬石居城筑後國久留米。

○佐竹右京大夫　とあるは從四位少將佐竹義堯。此家戊辰の際には東北に於て王師に早く從ひたり。領知二十萬五千石。餘居城出羽國久保田。

○南部美濃守　とあるは從四位中將南部利剛。領知二十一萬石。居城奥州盛岡。

○上杉彈正大弼　とあるは從四位上中將上杉齊憲。領知十五萬石。居城出羽國米澤。

●松平隱岐守　とあるは從四位上少將松平勝成（今は久松と稱す）領知十五萬石居城伊豫國松山。

●松平越中守　とあるは從四位少將松平定敬。會桑と併せ稱せられて幕末に武名ありしは此家にして定敬は會津中將容保の弟なり。幕末の老中板倉周防守勝靜も此家より出づ。文政六年より勢州桑名を領すと雖も有名なる少將定信樂翁の時は奥州白河を領したれば藩臣にも奥州生れの人多かりき。領知十一萬石居城勢州桑名。

●松平下總守　とあるは從四位少將松平忠馘。領知十萬石居城武州忍。

●奥平大膳大夫　とあるは從四位奥平昌服。領知十萬石居城豐前國中津。

●松平甲斐守　とあるは從四位柳澤保申。領知十五萬千二百八十八石居城大和國郡山。

●榊原式部大輔　とあるは從四位侍從榊原政敬。領知十五萬石居城越後國高田。

●小笠原左京大夫　とあるは從四位侍從小笠原忠幹。領知十五萬石居城豐前國小倉。

●酒井雅樂頭　とあるは從四位少將酒井忠績なり其子を忠惇と稱す。此家は幕府の大老職に任ずる人多く德川家とは深き緣故あり。領知十五萬石居城播州姫路。

●酒井若狹守　とあるは從四位酒井忠民。所領十萬三千五百五十八石居城若狹國小濱。

●酒井左衛門尉　とあるは從四位酒井忠篤。此家江戸市中取締を爲し有名の新徽組を預り武名を幕末に振へり。領知十七萬石居城出羽國鶴岡。

●大久保加賀守　とあるは大久保忠德。領知十一萬三千百廿九石餘。居城相州小田原。

●稻葉民部大輔　とあるは從四位侍從稻葉正邦。領知十萬二千石。居城山城國淀。

○立花飛彈守　とあるは從四位上少將立花鑑寛。領知十一萬九千六百石。居城筑後國柳川。

○丹羽左京大夫　とあるは從四位上少將丹羽長國。領知十萬七百石。居城奥州二本松。

○津輕越中守　とあるは從四位少將津輕承烈。領知十萬石。居城奥州弘前。

○眞田信濃守　とあるは從四位眞田幸敎。領知十萬石。居城信州松代。

●阿部豐後守　とあるは從四位侍從阿部正外。領知十萬石。居城奥州白河。

●阿部主計頭　とあるは從四位阿部正方。此人は有名なる阿部伊勢守正弘の孫なり。領知十一萬石。居城備後國福山。

●戸田采女正　とあるは從四位侍從戸田氏彬。領知十萬石。居城奥濃國大垣。

●堀田相摸守　とあるは堀田正倫にして通稱鴻之丞と書せし所多し。老中堀

田備中守正睦の子なり領知十二萬石居城下總國佐倉

○宗對馬守とあるは從四位侍從宗貫遠なり領知は十萬石以上の格にして居城は對州府中なり

以上は十萬石以上の諸侯なり十萬石以下の諸侯にも政界に大關係を有する家なきに非ずと雖も多くは幕府の老中等に任じたれば次の職員の部に讓りて茲には掲載せず官位並名字は武鑑に由ると雖も年々の小異同は免かれ難し特に慶應四戊辰の時に至りては隱居相續等多ければ一々に記載すると能はず其條下に註す可し幕末の政治的錄臺の役者は多く以上に掲げし大諸侯の藩臣と知る可し又表面の領知高より實收入の多數なるあり小數なるあり假令は毛利の三十萬石餘は百萬石以上ありしと云ひ池田の三十萬石は辛くして表高丈を收め得られ山內の二十萬石も實際は非常の大數なりしと云ふ島津毛利山內鍋島は國富みて兵足りしなり德川恩顧の家と綱豐以來の家とを●譜代大名○外樣大名に分つ以て系譜の政界に關係あるとを見る可し

明治三十一年六月廿二日印刷
同　三十一年六月廿五日發行

幕末小史壹
實價金參拾五錢

著者　戸川殘花
東京市日本橋區通四丁目五番地
發行者　和田篤太郎
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地秀英舍員
印刷者　山本鐵次郎
東京市日本橋區通四丁目角
發行所　春陽堂
電話本局五拾壹番
印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
株式會社秀英舍
（電話本局十八番）

版權所有
●內に致行者●
●印刷納品●
●不許複製●

特別割引券

廣告

一江湖御花主様方の御取立により日に倍し盛大に相成摩深謝候偖世運風潮に免だち文學社會に鋒々たる大家方の手に成る新規新案の原稿相選ひ挿畫製本に注意し逐次出版致候間愛顧贈答方奉倍御愛顧の発を願はらん事を希望仕候

一此書價書目の外百般の書籍は御命令に應ひ御取次仕候間書名著者出版人等御記載御注文願上候尤も直段は無油斷他店より一層廉價に相働き候間自然高價にも達上候時は御申越次第直引可申候

一送金方は内國通運價早逸又は郵行或は日本横郵便本局宛等のかはせにて何れも前金に御願申上候

一御注文後遅三日以内に必ず出書可仕候

一此切取紙へ品物御書入御注文の御方へは賜登價書目の内特別一割引にて御送り申上候

一郵券代用は一割増にて願上候

一宿所姓名は可成御明瞭に楷書文字にて判然御認願上候

一御親友御同僚中小說雜書御愛讀の御方の宿所御姓名御通知願上度拙店より早速書目御送り可申候

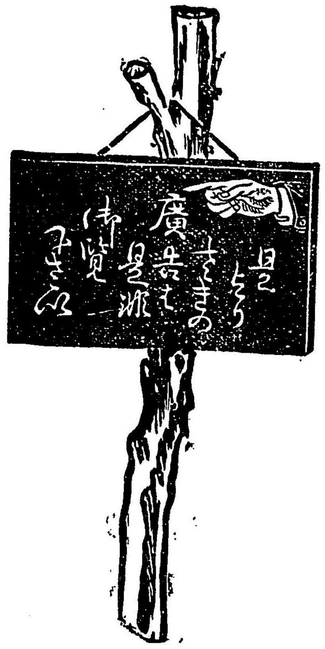
一前件申述候通り下段及裏面に書入場所有之候間御注意願上候

東京日本橋通四丁目角 春陽堂 和田篤太郎

電話五十二番

御注文主住所氏名	書籍類を購求せらるゝ諸君の住所氏名

切取線



注文箋	書目一冊數	文書摘要
金　金　金　金		
小計　金		
金　金　金　金　金	書目一冊數	
金　金　郵税　運賃		

切取線

紅葉山人著述目錄

伽羅枕

武内桂舟畫　實價卅五錢　郵税六錢

紅葉子數年の著作六十餘種に及ぶと雖も、長篇本書の如きは未有らず、蓋し金剛石の徑一寸なるもの乎。

戀之病

無名氏畫　實價十錢　郵税四錢

夫婦喧嘩より一轉して戀病者を治する醫者出でぬ行文已に滑脫絡繹たる奇警一讀笑ひ死せざるものなし。

冷熱

富岡永洗畫　實價三十錢　郵税六錢

寒夜痴男を氷雪の中に苦めし美人は、夏日痴男の爲に炎熱の中に煩悶せしめらるゝの奇談にして活殺自在底蘊は讀者をして生死の岐に彷徨せしむ。

青葡萄

渡邊省亭畫　實價三十錢　郵税六錢

著者身上の厄難を一種獨創の記錄体に綴れるものなり人其妙を解すれば恍として身其妙を說むが如し。

紅鹿子

武内桂舟畫　實價十二錢　郵税四錢

此書夏期國東五郎の二篇より成る橫開枕本にして手枕の友としてよし。

俳諧名家選

四六版英本　實價廿五錢　郵税四錢

今や俳諧復興して氣運天を衝くの時本書出づ實に斯道の指南車として先趨後進の欠く可らざる良書なり。

なにがし

鈴木華邨畫　實價三十錢　郵税六錢

本書は戰傳兵談血俠血の二篇を收めたり、若夫等を繙けば想に鬼氣ありて毛髮に通り、文に異彩を放ちて顏色を照らさん。

心之闇

富岡永洗畫　實價二十錢　郵税四錢

本篇は紅葉山人が其平生筆を打ち蛇を驚かすの棒を投じ、利刃一揮直に深潭に投じ去りて、須臾波上に凝紅を浮ぶ底觀あり、附錄遊水又頗る情致あり。

笛吹川

三島蕉窓畫　實價三十錢　郵税六錢

一條男兒の性行と幼女の衷情を綴くの間親平石の如き投情漢を點綴したり筆端輕々描きさり描き來りて圓轉たるもの題して笛吹川といふ。

隣之女

武内桂舟畫　實價三十錢　郵税六錢

隣の女は實に隣の女を解剖したるなり口舌の美人は篇中の文字と相映じて特徴慢憎皆に寧齋氏の題詠三首を錄せれば一層の彩を添えたり。

浮木丸

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

本篇の骨子は賤民の一子九死の命を全うしてゆくりなくも一城の主となるの經歷なり其妙は更にもいはず。

夏小袖

無名氏著　實價廿五錢　郵稅四錢

復讐の武士あり辻斬を試む、刀利魔の如く手練殆ど神なり、驚るゝ者夜々幾百人、而して後影の捉ふ可き無く、天下爲に騒然たりし匿名出版の奇書即是なり。

紫琴

水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

「紫」は心配性なる醫學生が數度失敗の上漸く及第するの件にして頗る人情の美を發揮したる紅葉山人の筆、「琴」は江見水蔭子の附錄短篇なり。

不言不語

鈴木華邨畫　實價三十錢　郵稅六錢

現とよべる一美人が一種不可思議の情實を秘める笠原家に仕へて其不言不語の情實の爲に又自ら不言不語の理に心を驚せ其秘密を探ちんとする奇談なり。

片ゐくほ

省亭年方合畫　實價三十錢　郵稅六錢

片鬆は、何者とも知らず、何處より來たれりとも分かず、忽然として深夜に門を叩きし一女子が好題の特點なり。

三人妻

武内桂舟畫　定價五十錢　郵稅八錢

お鮑は歌麿の美人の如く紅梅は北齋の妖婦の如くお才は春國が筆の餘り、拓むもの鬻むもの夫れ〳〵の特性を寫して一點の活錦繪を展ぶるに似たり

二人女

武内桂舟畫　實價廿五錢　郵稅四錢

養心描恩の筆、鉛魂斷腸の記、紅葉山人獨擅の技此編に於て盡せりと謂ふべし。

紙きぬた

武内桂舟畫　實價廿五錢　郵稅四錢

寸珍の冊子四種の好文章を萃めて家々楽上の清玩に堪る、製本は袖珍の美本、外出車上の往來に携帶頗る便なり。

多情多恨

箱入美本　實價七十五錢　郵稅十四錢

本書は紅葉山人近來の大作なり、多情の男兒多恨の女、豪油の如き情海に浮沈するものを既く筆々尊妙顧來て巻を掩ふに忍びず。

男心

クロース製　實價廿五錢　郵稅四錢

男心は東家西家の一小茶話に過ぎずと雖も放膽一過せば、筆々傷まざるなく、悲まざる無く、甘々慈へざるはなし。蓋情の最も切にして、文の最も至れるもの平。

命之安賣

文學世界之内　實價金八錢　郵稅二錢

七十二文命の安賣、表題已に奇あり、其趣味の味あるは蓋宜なり、一篇の小冊子、薩摩武士の面目を曝露し來る

此ぬし

新作十二番之内　實價金卅三錢　郵稅共

無情木石の如きの男兒、窈窕たる美人に燃はれて、然も錢勝愈堅固なり、偶々男兒吹矢筒の惨事あり、心を驚へして美人と婚す、妙趣溢るゝが如き好小説。

新色懺悔

菊芳十種之内　實價十二錢　郵稅四錢

美人を描き情事を説く、紅葉山人の筆の如く妙なるは なし、先生今其微妙なる筆端を弄して、巧みに描き出す新色懺悔、其外題を見て其趣きを知るを得へし。

饗庭篁邨著述目錄

笠之露

富岡永洲畫　實價三十錢　郵稅六錢

篁村子が輕妙の筆にて人情の極微を寫せるもの實に氏が近代の傑作にして空前絶後の佳什なり。

きせ綿

三島蕉窓畫　實價二十錢　郵稅四錢

輪柳帳中説法の二篇、前者は眞率後者は輕妙。

凧之糸目

久保田米仙畫　實價二十錢　郵稅四錢

凧の糸目は篁村翁の傑作數種を集む輕妙六花を飛ばすが如きもの婉曲柳絮の亂るゝが如きもの妙越究りなし

勝閧

新作十二番之内　實價金卅三錢　郵稅共

これ篁村氏の時代小説、春風駘蕩たる花の朝に、密雲天を蔽ひ來りて、颯爽たる秋の風の、楢の紅葉を吹く に似たり、窈窕たる薄命の美姫、一抹紫を仆す豪雄の武人、彼は老松の月に嘯くが如く、是は雪屑氷肌の霜 るに似たり。

有馬筆

菊版　實價三十錢　郵稅六錢

奥むる所三篇、如意寶球は輕妙に勢鶴石は嘲弄的なり 富貴自在は志士梅田雲濱を面白く敘したるもの。

雪達摩

菊芳十種之内　實價十二錢　郵稅四錢

非々たる六花は羅毛の散亂するに似たり、積來つて深さ三尺、お山の大將五人十人、此雪を轉ばして逸磨大師を作る、大師蟬然として其餓鬼を睨視するも日出るまでの命なり。

むら竹

合本全五冊　實價一圓二十錢

むら竹は篁村子多年の傑作を網羅したる四六版の美本なり、蓋し小説なるもの有りてよりの鐵書なるべし、短篇長篇殆ど數百種悉しくは合本の部に在り。

◎村井弦齋著述目錄

小說　小說家　全二冊　鈴木華邨畫　實價四十錢　郵稅八錢

小說家小說家を作る、蓋んぞ驚かざるべけんや、一般の小說ならんや、本篇主人公鞠の倉奈麻利は蓋し何者ならんか。

鷲の羽風　水野年方畫　實價卅錢　郵稅六錢

猛鷲入を搏つて下る輝丸一發、を洞す者は誰ぞ全篇の骨子寫とくとれ寓意的の冊子其一英人を爭ふの痴漢は蓋し何者ぞ一讀爽を拍つて思ひ央に過ぐるあらん。

血之涙　富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

大尉金石某血精花の如し、一朝事あり異域に憤死す、遺族を隔て本國に流離す、佐齋居士戰錄の傑作

櫻の御所　全二冊　富岡永洗畫　實價卅八錢　郵稅八錢

相州後の御所三浦駿河寺の鐘を說く小櫻姫の武勇荒次郎の豪勇千段櫓の怨みとなりて一篇收まる。

朝日櫻　全二冊　鈴木華邨畫　實價卅八錢　郵稅八錢

兄弟の孤男子あり、一は陸軍に一は海軍に、相拮抗して國難に當り、滿大國を破したるの餘威を以て、皇軍歐洲を蹂躪す、其快いふべからざるなり

沖之小島　富岡永洗畫　實價廿五錢　郵稅六錢

朝鮮海の眞撈、飯野六郎の奸邪、老雄の忠實、本書は凡てこれ邪と正との戰にして、忠と不忠の修羅場なり

◎櫻癡居士著述目錄

秋之夕暮　三島蕉窓畫　實價廿五錢　郵稅六錢

幾氣に富みたる男兒あり、兩兄の愚にして家產を失なひ、毒婦惡漢の掌中に歸したるものを救はんとして、數大身を危地に陷る、讀んで以て家庭の教草となすべし。

櫻痴放言　三島蕉窓畫　實價三十錢　郵稅六錢

櫻痴放言は居士の大法螺なり鏡金神士銀非貫婦人等の假面を吹き飛さんとす進入の山伏も又三合を避けん。

浮世見物　水野年方畫　實價廿五錢　郵稅六錢

居士の活眼洞察剝す處なし僞神士僞豪傑は殆んど本書に於て其肝腑を破却せられたるものといふべし。

豐島之嵐　筒井年峯畫　實價三十錢　郵稅六錢

著者我國現時の新劇に完全の脚本無きを愛ひ乃ち此作あり彷彿として活劇に接するが如し。

衣笠城　小林永興畫　實價廿五錢　郵稅六錢

源氏の興亡錄倉の鎌倉忠臣義士等の學蹟を收めて三浦家の興亡を說きたるもの鎌倉所と並び稱するに可なり

譽の兜　富岡永洗畫　實價廿五錢　郵稅四錢

書を作らば當に世學を益すべく小說を編ば當に人心を高うすべしとは著者の理想なり本書は大阪の勇士木村長門守重成を此想によつて描出したるものなり。

小說　寫眞術　富岡永洗畫　實價廿五錢　郵稅六錢

寫眞術は二百年二處女の立場を、其心の底を映しとり て愉快絕の好小說なり、挿畫は特に石版彩版にて精巧を極めたれば、實に錦上花を添るといふべし。

小弓御所　鈴木華邨畫　實價三十錢　郵稅六錢

神奇絕妙を射つて曾根佳人を稱才子反城の毒手を避けて他邦に流遇す鳩遲の姫が哀れに悲しき物語弘が娘の不倫千古に絕したる千變萬化の筆端鬼神も爲に驚く

小說　小猫　富岡永洗畫　實價五十錢　郵稅十錢

房洲嚴の島の奇少年、美人の贊助を得て始めて東都に學ぶ、政黨の秘密、要路大臣の苦衷、片々たる浮世の粉流にもまれたるの少年は、他日米國の勇將也。

山縣大貳　富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

幕末勤王の傑士山縣大貳竹內式部等の事蹟と其計畫とを小說体に描出したるものなり。

櫻癡新編　武內桂舟畫　實價廿五錢　郵稅六錢

亂初右衛門は凶暴豺狼の如き巨盜、半生を說き淨瑠璃は地獄の餓に響へて紳士紳商の內幕を穿つ櫻痴新編の名著し空しからざる新案の著述なり。

夢が夢中　渡邊省亭畫　實價廿五錢　郵稅六錢

多額納稅議員が法律家新聞屋惡奴仲買人等に勝誤せらるゝ狀を輕々涙々映し來りて然も人腸を穿つ事劇切。

嘘八百　三島蕉窓畫　實價廿五錢　郵稅六錢

讀園撰錄の內幕魂膽を滑稽口調もて興趣的に寫做したるもの文章輕妙趣向奇絕噴飯に堪へざるの諧謔頗る多く明治年間所謂士なるものゝ胸中をえぐりて、彼の蠱をして顏色なからしむ愉絕快絕

伏魔殿　水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

居士五十年の經歷社會各般の內幕を屠龍搏虎の筆に上すもの前篇を怪物屋敷となし後篇を嘘の世の中となす僞神士藝妓幇間田紳の蠱惑く活現して生氣あり。

◎ちぬの浦浪六著述目録

春雨傘

渡辺省亭畫　郵税六錢　賣價三十錢

昔時の俠客曉雨が佳人湖雲と相遇ふたる事蹟を記したるもの流暢の筆觸錦繡の情況然當時の光景を見るが如し

天竺德兵衛

小林永興畫　郵税六錢　賣價三十錢

俠客と呼はれ海賊と唄はれし當代の一人傑は大隅の邪智安房の義俠柳生酒井の活眼となり一編の波瀾收まる。

三日月

渡辺省亭畫　郵税四錢　賣價六十錢

三日月は浪六氏が文壇に雄飛するの嚆矢たり、打ては響く六尺の軀身、まかりんでた大文章、一時を風靡せしめたる珍奇なり。

井筒女之助

省亭年方合畫　郵税六錢　賣價三十錢

大唐國の美少年境若狭は二代當年の井筒女之助嬋娟たる容顔は妖艶にして度量濶達奇怪の勇士が詳傳なり。

奴之小萬

渡辺省亭畫　郵税六錢　賣價三十錢

小萬は女傑なり父の仇を報じ母の讎を殺す其間柳里恭の風流小萬の韻事又贊するを要ひず。

鬼奴

武内桂舟畫　郵税六錢　賣價廿五錢

鬼奴あり窮寇婦女の如き主に使へて忠實、權威に曲らぬ錢骨を主の爲には屈して無念を忍ぶ、其可憐なる處女の爽情に泣く寇鬼奴頗る涙もろし。

破太鼓

水野年方畫　郵税六錢　賣價廿五錢

これ當年の山鹿甚五左衛門、打ては響く太鼓の音は如何に江湖を驚倒せしめたる、愉絶快絶の大傑作なり。

夜嵐

武内桂舟畫　郵税六錢　賣價廿五錢

一編の骨子宦目の悪漢妖婦の好欺にして彼の奪は鳥よりも恐ろしく之の惡は蛇蝎の害にも勝る然も尚奪鄰一點の怨情あるの處此書千金の價値あり。

深見笠

武内桂舟畫　郵税六錢　賣價廿五錢

深見十左を主として安西閑心白興三衛藤堂新七北條安房等を客とし更に一枝窈窕の花を加へたる一部の小説天下無類のすねものが半生の勝敗は著者獨得の長技

髯之自休

水野年方畫　郵税六錢　賣價廿五錢

深見笠は前編にして本書は其後篇なり一氣呵成のもと前後百回の大編を大成したる浪六氏の大筆、勇壮にして然も可憐なる磨貞藝始めて完璧たり。

塚原蔦洲著述目録

浪六漫筆

武内桂舟畫　郵税六錢　賣價三十錢

小説あり實事譚あり雪月花以下筆むる所數十種遊女乞食濁口與一石川五右衛門青曲天女等尤も面白し。

安田作兵衛

渡辺省亭畫　郵税四錢　賣價三十錢

明智が三羽鳥の一人右大臣に鉛をつけたる勇士死して亂臣賊士と唄はれしが今や一管の錆筆に吊はれて可憐の老武者とはなりぬ。

たそや行燈

渡辺省亭畫　郵税六錢　賣價三十錢

たそや行燈の影暗き處、鬼が出るか佛が出るか、浮世の外の色深き處、俠骨稜々たる快男子あり。濁氣凜烈たる俠美人出づ、快話軟語人をして夢中に彷徨せしむ

後の三日月

水野年方畫　郵税四錢　賣價二十錢

濁六子の傑作三日月の後篇なり篇中の人物凡て前篇より來りたり、前篇の美人已に老ひて新來の主公意氣豪なり、併せ讀めば其快限りなし。

千の利休

學園花壇の内　郵税六錢　賣價廿五錢

狂暴虎の如く、怒つて我佛を碎く豪放の興四郎、生家を放たれて江湖を流浪するの間錆を揮つて武人を殺す、父其暴を愛ひ身を殺して子を棄ひ此怪兒乃ち千利休

おあき

水野年方畫　郵税六錢　賣價三十錢

日出國の蟠天に冲するの處一美人一兵士あり情緒纏綿、時に狂戾の老婆を現はして其間を點綴す妙趣無限

最上川

水野年方畫　郵税六錢　賣價三十錢

兄妹仇敵を求ひるの間惡徒の毒牙陷に絶す偶ま飛脚屋あり仇氏を仆す天道は情なきに似て然も有情。

山中源左衛門

武内桂舟畫　郵税八錢　賣價廿五錢

滿身是れ膽の美少年は豪氣不屈或は遠水の志に泣き或は友の切情に迫られど妻の線さへ振切りて關東方に赤心を示したる彼の一代描き出して筆々眞にせまる。

淨瑠璃阪

小林永興畫　郵税六錢　賣價三十錢

義人烈士孝子忠臣忽にして劍環忽にして軟語淨瑠璃阪の復讐は當年江都を驚かせし大快話なり。

北條早雲

武内桂舟畫　郵税十錢　賣價四十八錢

當年の新九郎長氏、關八州の草木を風靡して、北條九代の霸業を開く、英雄躍々として紙上に躍あり。

坪内逍遙著述目錄

桐一葉　鈴木華邨畫　實價卅八錢　郵稅六錢

英雄の末路眞に哀れむべきかな豐公死して天下亂麻の如し市の正且元孤忠幼主を輔佐すと雖も赤誠容れられずして空しく英魂を夾木の里に埋む好悲劇これなり。

文學其折々　紙數千餘頁　實價金壹圓　郵送料二十錢

氏が近來の作にかゝる論文批評飄刺滑稽等各部類を分つて集輯せるもの其東西の作家を評するに至りては實に以て明治思潮の干潮を測度するに足らん。

春の舍漫筆　實價三十錢　郵稅六錢

逍遙氏著はす處の三種を敍す第一は飄刺的物語にして第二は文學評論第三は西洋の逸話なり

梨園之落葉　小林清親畫　實價五十錢　郵稅十錢

逍遙子が梨園の子弟に寄むところの意見之を論じ之を敎へ誘導開發深く斯道の爲に盡したる者本書是なり。

牧之方　渡邊省亭畫　近刊

北條時政の室、北人をかりて當代の感激を敍せるもの

鷗外漁史著述目錄

水沫集　實價六十錢　郵稅十六錢

理木の哀れなる水池記の奇なる盜俠行の勇ましきも かげの優美なる舞姫の面白き、鷗外漁史純潔の詩想は殆んど溢出して本書に充てり。

つき草　紙數六百頁　實價壹圓廿錢　郵稅二十錢

本書收むる所のもの其論や寫真文や雄一の輕海文字あるなし雖かうつろひ易き花の色なりといふ者ぞ。

忍月居士著述目錄

蓮之露　武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

口繪に寫せし半裸躰の美人は市川如翁といへる當世に有りては只理想にのみ有り得べき女優にして道の露の主人公なり附錄蝙蝠分限の二編をも載す。

惟任日向守　三島蕉窓畫　實價二十錢　郵稅四錢

本能寺薄濃幾尺、まだ東雲の靄破りて、颯と閃き一閃の旗は桔梗の紋所、猪は日向めと、いふ間も遲し、萬箭俄かに起りて鬼神を倒す、英雄の胸中人知らず、公に忍月居士有り、筆を揮ひて、爲に筆を爭くるもの是本書

夏祓　鈴木華邨畫　實價卅錢　郵稅六錢

若嚴綠の可笑しき、戰話斷片の勇ましき、納涼曹の哀れに面白き、筆端走る所電逝これに乘ず。

黃金村　聚芳十種の內　實價十一錢　郵稅四錢

黃金村は聚芳十種の內傑作を以て世に聞きたるものなり、忍月居士の筆、奇峭飽麗、時に清風林間に起り、夜雨蕭々として杜鵑空を掠むるに似たり。

露子姫　渡邊省亭畫　實價廿錢　郵稅四錢

忍月居士が處女作として文壇に飛したるの始めなり所謂戀愛小說の神髓なるもの本書山て世に戀愛小說を作るの作家誰も又ヨる能はざるに至りぬ。

辻占賣　文學世界之內　實價八錢　郵稅貳錢

淡路島通ふ千鳥の戀の辻占と呼歩く可憐の小童は一夜權門多涙の夫人に逢ふ、小童知らずと雖も夫人は乃ち其母なり、一讀涙欄干。

遲塚麗水著述目錄

南蠻大王　百家選之內　實價十二錢　郵稅四錢

これ百花選中の大王、麗水氏雄健の筆

陣中日記　水仙畫　實價三十八錢　郵稅六錢

著者錄を被せて軍に牙山平壤に從ひ彈丸雨飛の間を奔走して得る處あり時來戰況風俗を敍する者本書これ也

牛月城　三島蕉窓畫　實價三十錢　郵稅四錢

楠氏の餘黨父祖の遺訓を以て一點の忠魂死すとも稔らず一美人の身として回天の大業を企て功業未だ半途ならずして遂に仆る其間の消息頗る人をして感奮せしむ

大和武士　水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

蘆溪三角商神沒の勇士櫻井時務曹長以下三十五士を經として泣々愛兒を殺して國と共に亡びんとせし吳服商を降として結構せるもの滿腔熱血を裂くるの思ひあり

さんざ時雨　富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

機者の舌は劍の如くにして、爲に江湖に流浪する清川右內、優にやさしき娘の雪枝、老僕の忠に死せんとする、俠雄の義に戰ふ、一篇の波瀾人をして泣かしむ。

照日之松　水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

亭々たる孤松天際を凌ぐの處鶴風雅は侵せども節操尚凜たり以て士の行に比すべし藤中納言の忠、豐島崇秋の義大推和尚の勇等本書の勇壯快究りなし。

月夜鴉

富岡永洗畫　定價三十錢　郵稅六錢

麓水子か難多の日子を費やして新作せるもの氏の錦腸を溢れたる餘片は暗香の浮揺するが如く紙上にみつ。

江見水蔭著述目錄

鎌わぬ坊

富岡永洗畫　實價三十錢　郵稅六錢

世をも人をも鎌はぬ坊、六尺有餘の骨格逞ましく、劇を扶け强きを挫く、其怒濤船を覆へさんとするの時、足を舷にかけて、一眺海若をひやかしむ。

水之聲

年峰年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

君屋城の奇なる鏡の間の面白き短篇數十種藏くれ金玉の聲あり水の聲の淙々として妙味掬めども尽きず。

水車

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

兜の星彫燒山越旅齋酒等を始めとして水蔭子の著數種を收む紙數二百有餘買口畫は桂舟子の丹青になりぬ。

野試合

文學世界之内　實價八錢　郵稅二錢

野試合は勇氣勃々たる少年の其野試合に偉勳を立つる物語少年子弟の讀本として恰好なり。

正直正太夫著述目錄

見切物

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

見切物と雖も一山百文と申しては本屋其利に恐る事あるべし仍て實價卅錢を申受く郵稅は六錢なり。

油地獄

菊版莫本　實價二十錢　郵稅四錢

これを讀む者はいゝ子讀まぬ者もいゝ子讀むと讀まぬは御勝手なれど買ふと買はぬは御勝手にあらず是非一本を購ひ玉へと慾の無い書肆が申す。

反古袋

森川燕亭畫　實價廿五錢　郵稅六錢

「作家の爲には買はずとも讀め書肆の爲には讀まずとも買へ」と著者は自ら序したり、之れ當年の大傑作。

かくれんぼ

文學世界の内　實價八錢　郵稅二錢

正直正太夫氏が輕妙なる筆致を弄して、文學世界に一段の光彩を添えたる傑作、試に一本を購ひ玉へ。

眉山人著述目錄

塙團右衛門

省亭米僊合畫　實價三十錢　郵稅六錢

武士となり浪人となり乞食となり禪僧となり時に或は折花攀柳の痴漢たらんとし時に或は叢月踏雲の詩人を學ぶ其豪快俠烈の奇男子は曙如として紙上を横行す。

鬼一口

武内桂舟畫　實價廿五錢　郵稅四錢

開白秀次が淫縱の有樣を小說に敍したるものにして篇中祇園の俠妓龜が醜態を寫せる所最も巧妙。

鴉の浮巢

筒井年峰畫　實價二十錢　郵稅四錢

名妓鳶熙の傳にして俠客信傳の俠義紙屑買の狂亂名妓の情夫何某の慢話等其面白き事書ふるにものなし。

目黑物語

渡邊省亭畫　實價三十錢　郵稅六錢

目黑の里の乘の井が娘と道心堅固なる一美僧との物語筆々輕妙にして句々玉の如し並し山人得意の傑作。

かつら姫

新作十二番之内　實價郵稅共　金三十三錢

妖艶なる桂姫、抑も藤家の女ぞ、中世亂臨の世に處して、平世の餘業を金つる女將軍。

柴車

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅四錢

「かゝり舟」の波に驚き「撞子」の露に咽び「漬漬」の月に色めきたる句々悉く溜賞の價を語るに難からず。

蔦紅葉

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

艶冶なる妖婦あり純潔の少女を弄ぶ痴漢の愚冶郎の狂筆々活動せざるなし三年暎噲に至りては昨是今非の世態を描寫し悉したるものなり。

綱代木

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

窮措大猫然志を決して互ひに方針を定む二人東西に相隔つと雖も後年の會合果して如何本書は實に氏が理想を練り酷苦勵精始めて成るの好傑作なり。

二枚袷

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

白藤は宛轉たる情思を點出するもの殷機は春想商潔神韻深渺たり二編を合して二枚袷と題す、口點は桂舟子の艶筆畫中の人もの言はんとす。

大村少尉

水野年方畫　實價廿八錢　郵稅六錢

試傍艦と共に沈沒したる勇士の遺子にして功を日清の大海戰に植つ其勇武快活なる物語、時に窮寇たる敵女を出して錦上花を添えしむるの趣きあり。

萩桔梗

武内社舟著　實價二十錢　郵税四錢

眉山の繊巧なる小說の輕妙なる、雨宿の得意なるものを合せて本書となす、乞ふ讀者讀んで甲乙を判ぜよ。

廣津柳浪著述目錄

五枚姿繪

富岡永洲著　實價卅五錢　郵税八錢

才人新太郎を主として女婦女素女房等三美人の胸中を描出す遠藤三百二十一頁の大冊。

一人娘

筒井年峰著　實價三十錢　郵税六錢

一美孃あり一痴男あり、痴男美孃に戀寄するの間好夫妖婦に欺かれ殆んど一家を沈治せしめたる物語。

段々染

水野年方著　實價三十錢　郵税六錢

お拾お房お光三女が性情を說く三女の性情境遇によつて異なれる嶮奇絞快飯頗る多し。

異り種

鈴木華邨著　實價卅五錢　郵税八錢

本書は某國公使の遺女お英なるものを主人公となす、お英の母は乃ち洋妾なり、舉止輕躁にして銀行治まらず、お英も又迂治郎に誤まられて狀如治故する一場話。

幸田露伴著述目錄

有福詩人

波邊省亭著　實價三十錢　郵税六錢

本書は伯爾物語好國樂書生商人あしの一節の四篇を以てす文は聲上珠を轉ばすが如く着眼往々人生の眞理を看破し情趣を謳歌したるの文字少なからず。

葉末集

小林永興著　實價廿五錢　郵税四錢

葉末集は露伴子が著述中の傑作數種をあつめたるものなれば今更喋々の辯を須ひず。

新葉末集

小林永興著　實價廿五錢　郵税四錢

新葉末集は葉末集と共に併せ讀むべし彼は春花の新をきそひこれは秋月の美を弄ぶ。

戀の俘

波邊省亭著　實價廿五錢　郵税六錢

戀の俘は彫刻師某の物語にして露伴子が近業中の白眉なるもの其想や神其文や妙。

七變化

菊芳十種の内　實價十二錢　郵税四錢

七變化は三昧道人の戀の重荷と共に菊芳十種等の七をしめ口趣向の奇拔なる表題に背かず。

蓮山人著述目錄

鬼車

松岡錄弈著　實價五錢　郵税二錢

金埃光明の貴公子武を戰はし術を較べて悉く勝ち三美人を得て無上の尊位を極むれて之れ妖怪の恩惠なり。

友仙染

水野年方著　實價二十錢　郵税四錢

夫れ着物にも他所行と不斷着とある其又不斷着にも富と貧があるさりながらこれ計りは掛直の無い友仙染花も實もある染草は新發明の專賣品。

燒火著

渡邊省亭著　實價三十錢　郵税六錢

本書は蓮山人が平生其能く仇女少畫を寫すの筆と投して更に奇警輕妙の長篇を作りしもの燒火著の圖已に奇

蓬合傘

松華合作　實價三十錢　郵税六錢

敗むる所二篇曰く元祿笠曰く糸遊、前者は懷姙に後者は繼絃に、忽にして清風、忽にして霹靂妙味極りなし

かたゝ糸

文學世界之内　實價金八錢　郵税二錢

かたゝ糸をあなたとなたによりわけたる蓮山人の遊筆其所作なる物語を見よ。

山田美妙著述目錄

新太平記

久保田米仙著　實價二十錢　郵税四錢

本書は深刻の觀察を以て足利直義を評註したるもの彼の心事は本書によりて始めて明快。

猿面冠者

文學世界之内　實價金八錢　郵税貳錢

猿面の英雄尾州中村を起りて天下を掌握す本書は其胸中を穿ち鑿したる小冊子彷彿として古英雄の像を見る

やたらじまは

菊芳十種之内　實價十二錢　郵税四錢

やたらじまは美妙齋主人が傑作なり海命の奇人才子の遊遁より始まりて一遍の波瀾妙趣交々起る。

新作十二番之内　實價卅錢　郵税共三錢

教師三昧

女學生女教師が内幕をあばいて、其操行を天下に傳ふる一種風刺的の大文字。

新式節用辭典

紙數七百頁　實價四十八錢　郵税八錢

本書は從來の節用集の外全く一機軸を出したるものにて附錄には無限七曜表○漢字假名遣○雜字地名集○疑似の漢字表○年號類集○日本海陸交通全圖を添ふ。

以下 諸大家著述目録

壽王冠者
松居松葉
鈴木華邨畫
郵定價三十錢 郵稅六錢

清風吹いて寒籟起り曉々たる笛聲は暗に想夫戀の曲に通ふものゝ如し忽ちにして龍虎怒り百花笑ふの大雄篇

豐太閤裂封册
川尻寶岑
實價十五錢 郵稅四錢

明智が憤慨の手段を風破して驟然地を蹴つて立ちたる豐太閤の勇姿躍々紙上に在り興趣昭代の好院本。

慷慨家列傳
近古
西山芝山作
實價十錢 郵稅四錢

佐久間象山渡邊華山以下木戸孝允に至る迄三十五人の義士慷慨の志士好傳を載す文字簡潔にして然も粗漏ならず近古の烈士寂然紙上に活動するが如し。

戰時大探偵
長田偶得著
實價十五錢 郵稅四錢

日清戰爭に際し探偵の任務を悉して不幸の死を遂げたる傑士の列傳なり一讀毛髮そよぐの感あり。

臺灣陣
加藤祐作
稲野年恒畫
實價三十錢 郵稅六錢

鄭成功の事蹟を綴りたるもの鮮力雄渾躍動省をして勇躍として眼底古臺灣の風景を泛はしむ。

維新豪傑談
西村天囚
菊版美本
實價三十錢 郵稅六錢

逸傳十章、觀音堂白毛搶好丈夫藤原下双俠義が辻生磯古狂生古壯士無頼漢、雄々鬼氣あり慷慨人に迫る。

錦の舞衣
圓朝口演
武内桂舟畫
實價廿五錢 郵稅六錢

俠婦阪東お須賀の半生を說きたるもの情人狩野鶴信の爲に言ふ可らざるの苦を忍び節を汚して然も終に情人を救ひ得ず絲髮倒に天を衝いて仇敵を刺す一大慷慨。

名人逸話
風流散人著
水野年方畫
實價廿五錢 郵稅六錢

在歌師俳優を始め一道の名人上手と言はれたるものゝ一生の逸話を網羅し一讀顎を說き再讀膝をよるものあり行文簡易にして經妙なれば春夜夏日の好伴侶たり。

異鄉之友垣
末松謙澄
鈴木華邨畫
實價三十錢 郵稅六錢

篤學產業の開發者たる吉田健作氏が海外留學中の事績を經とし末松謙澄氏及び自身を緯として小說體にものしたるもの附錄又崑山の片玉愛讀すべきもの多し。

小說木枯
市川新版
口藤桂舟中畫自筆
實價二十錢 郵稅四錢

學海翁の曰く未だ名錢にして神丸小說を著はせしものを聞かざるなり其之有るは我新版子より始むと嗚此一篇假りて以て新篇の評語に充つべし。

かたゝ戀
二葉亭著
鈴木華邨畫
實價卅五錢 郵稅六錢

三年不鳴不飛、深く世を晦ましたりし二葉亭主人の新著なり、ツルゲネッフの面目眼底に泛ぶを覺ゆ。

小楠公
川尻寶岑
三島蕉窓畫
實價廿五錢 郵稅四錢

小楠公の殘名千古に燦たり精忠林泉鬼神を泣かしむ今其尊靈を轟合して隱本時となし操樂の傍ら義勇奉公の正義を發揮せしむ。

學園花壇
諸家大作
三島蕉窓畫
實價廿五錢 郵稅六錢

露伴子の當世文反古は大に世情を穿ち鷗水生の再生錄は哀婉と極に淚六の千利休もが好文字なり藤の宮女即以下思案乙羽花夜叉諸氏の作頗る面すべし。

なぽろし
潮處子作
久保田米仙畫
實價十八錢 郵稅四錢

盲愛の母は身を養蜂に委して辭せず、性行高き青年は人生の潮涙に搖かれて闘れ、愛の犧牲となりたる少女は死に入りて復還らず、本書は潮處子が得意の佳什。

若葉
高瀨文淵
三島蕉窓畫
實價廿五錢 郵稅六錢

詩の質趣を散文もて寫したるもの題して餘情若葉といふ幼時の情より若葉して許嫁の愛の死日に逢はざりしを怨む迄の一篇著眼新鮮々生色あり。

亂れ咲
丁々子作
寺崎廣業畫
實價十五錢 郵稅四錢

本書は前元老院議官田邊太一氏が其光風霽月を樂むの餘暇を以て寓意小說を綴したるもの其面白く珍らしきは氏の經驗を推しても知り得べし。

四之緒
四家合作
水野年方畫
實價二十錢 郵稅四錢

紅葉子の鷹狩理屋山人の左褄柳淇子の白百合鏡花子の鏡燈夜半鐘を收む恰も一朶の彩雲春花をとさすが如し

松菊餘影
名士遺墨
實價廿五錢 郵稅六錢

或は古壯士たり或は維新の功臣たり時の內閣顧問として王政復興の偉業を完からしめたる木戸孝允侯の餘影を錄したるもの志士をして泣かしむるものあり。

會津戰爭夢日誌
川尻寶岑
小林永興畫
實價二十錢 郵稅四錢

若松城殲滅の日少年の決死隊あり白虎隊といふ刀折れ矢盡きて城頭白旗の靡へるを見憤然眦を擧げて曰く嘗つて國の興を食はずと相則して死す義膽惜むべし

大海原
末廣鐵腸
久保田米仙畫
實價卅八錢 郵稅八錢

大海原は政治小說なり外人の暗殺官吏の專橫志士貞婦の因緣を始として過當大風惡魚大地震疫車の御與獨立の大暴擧暴談天驚地の大活劇を描き出したり。

本朝智惠袋

木版密畫入　實價廿四錢　郵稅四錢

本書は古今の滑稽談をあつめて春の夜のつれ〴〵夏の日のあき〳〵したる時の友として最も妙なり。

舶來智惠袋

木版密畫入　實價廿四錢　郵稅四錢

歐米各國先哲の滑稽奇談をあつめたるものにして其輕妙洒落なる本朝智惠袋とは更に其趣きを異にして妙なり篇中往々本邦人の夢想にだもなき快話あり。

中村花瘦　こぼれ萩

武内桂舟畫　實價廿五錢　郵稅六錢

晒し井霖紅梅の二篇を蒐す前者は男女の艶物語後者は一種悲慘の小說にして仁勇智義兼たる人を感慨せしむべきものあり令嬢方の友として好教訓たり。

肝付大佐　世界將來の海王

大山翠松畫　實價三十錢　郵稅六錢

露國海軍士官の原著にして英人クークの飜譯を以て長く歐洲に行はれたりしを今又重譯したるもの一篇の大意は英露の大海戰にして露が百年の長計をも籠めたり

六氏合作　籠枕

武内桂舟畫　實價三十錢　郵稅六錢

漣山思案柳浪紫山紅葉風葉六氏の小說を錄したるもの篇々悉く金玉鳴つて鏘々の響ありいづれ劣らぬ花菖蒲引きぞわづらふながめなり。

川崎紫山　日清海戰史

菊版美本　實價卅五錢　郵稅八錢

政治的歷史的眼光と精細なる調査よりして彼我海戰の狀況を敍したるもの眞にこれ龍嘯虎吼の慨あり。

川崎紫山　日清陸戰史

紙數六百五十頁　實價七十五錢　郵稅十四錢

東洋の天雲遽り風怒り外交の局面大衝突を來すの源因より血雨洗ぎて平和破れ牙山の一戰より平壤旅順威海衞牛莊營口田庄臺の戰となり平和談判に至て全篇完結

仰天子作　蝦夷錦

渡邊省亭畫　定價廿五錢　郵稅六錢

北士情人の衣を抱いて血涙天際に訴ふ、北海浪高く烟霧絕域を閉して大志未だ成らずと雖も、昊天豈んぞ無情の久しからんや風雨晴るゝの時日月又光を弄ぶ。

青軒天彥　花相撲

武内桂舟畫　實價二十錢　郵稅四錢

「この眼」は青軒居士にして「錦の袈裟」は天彥子の作なり綺想妙案一讀卷を措くに忍びず、彼は妍に是は麗に孰れに團扇の上るべきや行司は讀者の眼なり。

岡本昆石　瓜太郎物語

鮮齋永濯畫　實價四十錢　郵稅六錢

夢に瓢簞の駒に乗り飄々然として異國漫遊のオドケ旅行、瓜太郎の新夢想兵衞は野蠻文明半開の國々にいたり其奇に驚く諷刺小說。

さゞのや　文の庫

鈴木華邨畫　實價卅五錢　郵稅六錢

これ緋縅の舍主人數年の著作を集めたるもの、小說雜錄韻文紀行等無數殆んど三百頁になん〳〵とす。

懸賞小說　瀧口入道

水野年方畫　實價三十錢　郵稅六錢

時賴入道の半生を說きたるもの、これ當時世評嘖々たりし懸賞小說なり、匿名の著者は樗牛高山林次郎氏今文壇に雄飛する其人の處女作、

上野楊川　發明家

自畫　實價二十錢　郵稅六錢

志操確乎たる青年は貧に依つて志を變ぜず遂に幾人の助を得て一大兵器を發明す全篇壯烈的の大文字少年子弟をして讀た健勇の魂を振起せしむ。

廿三階堂　好色二人息子

藤島華仙畫　實價十五錢　郵稅四錢

已に好色の二字を冠す其妖艶珍奇なる知るべきのみ著者は松原二十三階堂中味の趣向秘めて語るべからずと雖も痴男妖婦の爲に翻弄せらるゝの態噴飯絕倒。

柵瀨君著　朝鮮時事

久保田米仙畫　實價廿五錢　郵稅六錢

朝鮮の現狀は敢て辭述するの要なしと雖も其政治、法律、社會、風俗、慣例等を知らんと欲する人は須らく本書を一讀するの必要ある可し。

南新二著　文車

三島蕉窓畫　實價三十錢　郵稅八錢

貧福二筋道、法の兩字、一夜詣人魚廿疊、孰れも面白し蓋し黃表紙の脫胎ならんか。

南翠外史　荒海實一

久保田米仙畫　實價三十錢　郵稅六錢

荒海實一と呼はるゝ奇少年、坎坷淪落貧困の中に人となると雖も毅魄英邁偶ま某美人の幇助を得て偉業を海外にたつるの大快話。

南翠外史　朧月夜

富岡永洗畫　實價卅五錢　郵稅八錢

擧世凡て盜賊滔々たる事實世紳はこれ尤も盜の巧みなる者なり外觀端麗にして擧止閑雅なる者尤も畏怖すべし諷刺的大小說。

小笠原大尉著　海戰日錄

若林海軍大尉畫　實價四十錢　郵稅六錢

舊唐津藩主小笠原子爵職海軍大尉たり黃海の役高千穗分隊長として殊功あり本書は子爵自ら其大海戰の間に立ち叱咤する餘暇嬌綺の錦腸を繰りて海戰の記事を錄したるもの讀者をして惻然として肌に粟する思ひあらしむ挿入する處の若林大尉の畫は蓋し日清海戰畫の巨擘なり彼我の各艦汪洋を突きて馳驅する狀宛然身其境に莅むが如し忝くも此の度乙夜の覽に供し奉り御嘉賞あらせられたる珍書なれば苟も國民たるも正に一讀すべきの書なり。

以心庵著 **不鳴鶴** 筒井年峰畫 實價三十錢 郵稅六錢

智恩院の宮が幕府の專横を慨して嘿然緇衣の袖を揮ふて立ちたりと雖も不幸にして中途に仆るゝ悲哀小說

中島逐波 **東武士** 富岡永洗畫 實價廿錢 郵稅四錢

朔風雪を催して爲松霜確たり、幕末の潔士中島三郎助、君家の爲めに微軀を擲ちて、父子爲を列ねて五稜郭に仆るゝの間、忠僕貞婦間嗟感漢交互錯雜妙除深し。

諸談相撲 **最負競** 日就社編 實價廿五錢 郵稅六錢

深慢自負無學にして博士ぶる講釋師の失策或は逸話を收め豆に縛して男の內の男山樵大賊の書と共に八百八町に鳴り渡る其關取の失策談をあつむるもの

上島山人 **釋元恭** 渡非忠著 實價廿五錢 郵稅六錢

快僧釋元恭、嘿然踏破す四百州、入ては哥老會の參謀たり、出ては宇宙の風塵を弄ぶ、其昔陀落山頭獅子吼の一聲、頗る人意を强ふするもの、須く一讀すべし。

冷血翁著 **近世偉人談** 菊版英本 實價二十錢 郵稅四錢

匿名の作家が傳記の上に聽て近世精忠の偉人を描く若の痕海陸隊女將軍女郎花六齋梅の無遮迦男閑東布東郭鶴鶴等諸士女丈夫十二人の面目彷彿紙上に横はる

仁禮敬之 **忠魂帖** 高畠版入 實價廿五錢 郵稅六錢

風泣いて雲悲しむ、これ日清戰役忠死の鑑、其凛烈たる風采は本書の內に在り、一讀其人に接するが如し。

若林大尉表紙畫 實價十五錢 郵稅共

海國雙語六

谷口政徳氏が海國社の贊助を得て編纂したるもの年者は渡部金秋氏にして表紙畫は軍人畫家の閑え高き若林大尉の特に寄贈せられたるもの少年子弟を益する多し

嚴氣樓主人著 **風流花圖** 全一冊洋裝美本 實價十五錢 郵稅二錢

自次の短論の都々逸季寄の都々逸は新作をうたふべき平の都々逸うたひ方の都々逸は離にても作らるゝ事の淡白業の事の切字の事の通ふ言葉の事の都々逸の種類並十二林の事の正時の尻取の天地の折句の賜答の典故の文句入の調謎の名所の地口の滑稽の手餘の題により都々逸を作る事の都々逸改良論の新作都々逸の附錄花ふゝき の千紫萬紅 いろは別新作六百餘題

頑機菩薩 **花柳お多福** 鈴木華邨畫 チリメン表紙 實價廿錢

明治雄鶴、お坐附、鶯唄、都々逸、婆生阿保多羅經等悉く新作の飛花落葉、一讀忽ち通人粹人となる天下の御家貴婦人の世の好伴侶。

諸大家傑作 **小說花籠** 定價八錢 郵稅四錢

日本未來 全二冊 實價廿五錢 郵稅十錢

春之夕暮 一風子著 實價七錢 郵稅三錢

新三國史 實價十五錢 郵稅四錢 名士肖像入

清佛海戰日記 毛錄道人著 實價二十錢 郵稅四錢

北支那雜記 通譯官瀨戶晉著 實價十五錢 郵稅四錢

破窓之風琴 辻治之著 實價十四錢 郵稅四錢

魯敏遜漂流記 牛山鶴堂譯 實價十錢 郵稅四錢

食獸世界 **狐の裁判** 井上勤譯 實價十八錢 郵稅六錢

世界未來記 齋山廣忠譯 實價二十五錢 郵稅十錢

空中旅行 井上勤譯 實價十八錢 郵稅六錢

萬里絶域 **北極旅行** 福田直彦譯 實價三十五錢 郵稅十錢

尊號美談 福地源一郎著 實價七錢 郵稅二錢

國會開設之前後 末廣鐵腸作 實價二十錢 郵稅四錢

合巻書籍目録

新作十二番

半紙木版摺
一冊金三十三錢
實價郵税共

現今小説家の巨擘を以て目せらるゝ、蓬郵、紅葉、英妙、三味、南新二、學海、香雪、得知、の諸氏か、各其月の如く花の如き詩想を練りて或は花の朝の妍を説ひ、或は月の夕の粲を恣まゝにする一世の傑作を梓に上し、題して新作十二番といふは、以て弊堂得意の小説を出版したるの心なり。

一番　紅葉山人著　勝
二番　山田美妙著　此
三番　宮崎三昧著　歌
四番　南新二著　桂
五番　學海居士著　鎌
六番　香雪山人著　十
七番　得知堂主人著　梅
八番　蓬郵主人著　廼

全　郎
全　四
全　三
全　武
全　津
全　そ
全　の
全　所

鐵道小説　切腹鳴神組

實價郵税二八錢

滑稽小説　寒帷子

實價郵税二八錢

漂流之佳人

實價郵税二八錢

小説　むら竹

蓬郵村著

全部廿卷合卷五冊
大凡三千頁
實價壹圓二十錢
運賃廿錢

巢林子が肺肝より出で、江島屋か骨髓を得、といへば胎内潜り覗せ物の口上ゆけどうそでも味噌でも何でもないと作者御自身の手遠、弊堂者へますに夫れではまだ、風來山人一家の風潮を傳へ、また曲亭の曲、柳亭のやはらか味ありといふとを摸落されたりと存ぜられ候、全部御購求あつてよろしく御評判のほど願上候。

全部目錄

第一集　從第一卷　至第四卷
●玉藻●鳳の月●下宿屋●走馬燈●掘へ所●鳥山の石●松の雨●袈裟みの●深山木●物産盤●藤棚●三筋町の通人●人の噂

第二集　從第五卷　至第八卷
●水の流れ●筆理の櫛●醜婦小説目錄●鶴海の鶴落●今年竹●鶴が真の聲●雲の下蔭●蛇蝎●病の原因●酒思に酔●影法師●ムッカシナ●軒の雫水

第三集　從第九卷　至第十二卷
●跡取子息●時の用●振分道●人の行末●文の同盟●大阪の話●閨の梅●櫛笄の果●面目玉●佛像紙質●夜の雨●つり橋●中よし●擬博多●時雨の舍り●兒の手柏●廻り車

第四集　從第十三卷　至第十六卷
●紙惚之月●鳥乙子●大石眞虎の傳●當世寫眞鏡●暗の馬●絵の糸●めかし損●當世寫眞鏡●孝女の幸ひ●作り●糸の亂れ●當世寫眞鏡●苦樂

第五集　從第十七卷　至第二十卷
●孫兵衛●對橋●紅葉●小菊姫●新殺生石●川端柳●●鳥めぐりの記●國原入裕の記●秋父紀行●房州紀行●水曾道中記●しほ草

聚芳十種

諸大家傑作
實價一卷十二錢
郵税各四錢
合卷全二冊
實價金壹圓
送料廿錢

一卷　香雪散人著　花の種　全一冊
二卷　紅葉山人著　新色懺悔　全一冊
三卷　山田美妙齋著　やたらじま　全一冊
四卷　南翠外史著　臥待月　全一冊
五卷　抱一庵主人著　闇中政治家　全一冊
六卷　廣津柳浪子著　糸のみだれ　全一冊
七卷　三味道人譯伴子著　七人の重荷合卷　全一冊
八卷　忍月居士著　黄金村　全一冊
九卷　幸堂得知著　さゝきげん　全一冊
十卷　竹の舍雪主人著　蓮摩　全一冊

文學世界

半紙木版摺彩色
實價八錢
郵税二錢

第一　紅葉山人作　命の安賣　全一冊　讀切
第二　山田美妙齋作　猿面冠者　全一冊　讀切
第三　二十三隣堂作　かくし妻　全一冊　讀切
第四、五　巖谷漣山人作　かた糸　全一冊　讀切
第五　忍月居士作　辻占賣　全一冊　讀切
第六　正直正大夫作　かくれんぼ　全一冊　讀切
第七　江見水蔭作　野試合　全一冊　讀切
第八　松葉庵主人作　ひつじかい　全一冊　讀切
第九　春子作　今みゆき　全一冊　讀切
第十　乙羽庵主人作　おもひ川　全一冊　讀切
第十一　安田鬱友作　有り難し神も佛も　全一冊　讀切
第十二　廣津柳浪作　いとし兒　全一冊　讀切

小說百家選

諸大家傳作
全部十五卷帙入
實價四十錢

第一卷 都の錦（紅葉山人）　續々明治文壇（柳浪）　春毛（太郎）　春花（太郎）
第二卷 昔語大王　國木田生
第三卷 獄中の獄（上）　三味線（完）　青年（下）　三味線（完）　居士人
第四卷 折鶴の矢　柳浪（完）　三味線（下）　太郎人
第五卷 金環鳥　美子（完）　永廣　井神　小柳　酒石人
第六卷 曲がり世　女（完）　翔雲　蹴雲　乙山　羽人
第七卷 紹介狂言　頃（完）　大賀（完）　江子　見水　春油人
第八卷 常盤草（完）　須藤南翠
第九卷 烏帽子折（上）　宇田川文海　新刀宗（完）　市川新蝶　治正宗（完）　江見水蔭
第十卷 水鳥の朝寒子　宮（完）　折（下）　藤谷遠山人　中宮　岡川文海　村花園
第十一卷 草深き紅葉（完）　紅葉山人　つゆ（完）　蘆（完）　藤花園　かり（完）　蘆（完）　藤花園　男鹿の涙（完）　藤花園　やめ（完）　藤花園　田舎廻り　山人
第十二卷 遊廓の貧乏神（完）　南陽外史　五銭草（完）　金舟居士　十銭旅行（完）　鹽紫　水山人
第十三卷 不如帰（完）　平太郎　ぬい（完）　名（完）　羽（上）　藤人園　ぬい（完）　市川新蝶　中藤　村山　花園人
第十四卷 ぬくめ鳥（下）　心（上）　中村花園人　女心（完）　藤山人
第十五卷 手女（完）　藤本山人

送料廿錢
實價十二錢
郵税六錢

狂言百種

故河竹黙阿彌作
全部一冊
實價金一圓
郵税金六十五錢
送料金二十錢

第一號 村井長庵巧破傘八幕　全一冊
第二號 故江戸小唄引三幕　怪談月笠森三幕　全一冊
第三號 島衛月白浪五幕　淨瑠璃一幕　全一冊
第四號 木間星箱根鹿笛四幕　淨瑠璃一幕　全一冊
第五號 勧善懲惡孝子譽五幕　全一冊
第六號 新皿屋舗月雨晴三幕　巖石砕瀑布勢力三幕　全一冊
第七號 三人吉三廓初買七幕　全一冊
第八號 水天宮利生深川三幕　身光於竹功二幕　全一冊

大通世界

幸堂翁印標註
全三冊
實價十八錢
郵税四錢

此書は幸堂得知標註字入小說實表紙繪摹半紙木版彩色摺の表紙見返し美麗なる和本也。

古今名譽實錄

全本上下二冊
一冊税廿六錢

釋史俗傳は雖でかため芝居講釋は空事多し世人已に今日正史なく實傳なきを慨む弊堂此度飛鳥の古寫本數十卷を得たれば之を根據として豪雄傑傑の眞傳を綴し文章を平易にして大方に頒つといふ。

珍談倶樂部

長方形美本
實價各一冊十二錢
郵税各一冊四錢

數人の胸に浮かんだ空中の樂園、珍談倶樂部は常樂でこざる、マア一寸入つて御覽ろ、御家に傳はる小說家、文學者、美術家も居れば、政治屋も居る、軍人も居る、探偵も詐者も、樂伯も實教師も、醫者もてんしやもいやもうてんやわんやに大騒ぎ出んで、銘々勝自いといふ面白い話、珍談といふ珍談ならべたてる為内々で解記いたして毎月一回づゝ出版仕る、尤もこれは倶樂部員には極内の値でこざれば、高い整では申されぬ、トヤによつて無切の低い値なもつて發賣いたす、サア〳〵買てごらうとろ。

第一卷目次
懺悔目錄……松葉子　春郎
滝　水……同　人
あなわれ……島留雄九

第二卷目次
一死一生……枯林子
奉　心……田山花袋

高等探偵

菊版製本各一冊
實價十八錢
郵税四錢
毎卷一冊

◎木戸少佐
◎大毒藥
◎戀の嫉刄

著想奇巧にして筆力勇健讀み去り讀み來つて其快言ふべからず天下の奇書と言ふも決して自負にあらざるなり。

歴史叢談

菊版美本全二冊
實價一冊二十五錢
郵税八錢宛

古談。軍談。逸事等百餘件を集輯せり

此編は兒童に歴史中の事蹟を知らしめ娯樂の中に我前賢潤達爽快の流風遺韻を咀嚼せしめ高尚健全の氣風を涵養せんとの目的なり記する所一々道德を踏みず勧善懲惡を附會せずされど兒童の腦髓を涵淘にすべき不潔の事蹟を混入せず。今や眞正の國史の誕し來るべき辰に當れり將た珍奇なる古談の漸くに國民に遠ざかるべき時期なり國史の眞に赴くと共に此の編の無用に屬せざるは編輯者の信ずる所なり。

探偵小說

合卷 全一卷 五冊 四卷迄 實價各金三十五錢 郵稅各十二錢

實價一冊七錢 郵稅各四錢

一卷
第一 文字の謎
第二 百萬圓
第三 電氣の死刑
第四 五人の生命
第五 やれ手紙

二卷
第六 影法師
第七 足の人形
第八 指紋
第九 血染の鬼
第十 風流の鬼

三卷
第十一 奇妙の人形
第十二 縮沼の人
第十三 ひだりき
第十四 黑手の
第十五 銀行の秘密

四卷
第十六 手の形の
第十七 順の
第十八 中の人
第十九 犬の
第二十 本の
第二十一 針の
第二十二 指紋

五卷
第二十三 美人の
第二十四 殺人の
第二十五 物言ふ
第二十六 女の子死
第二十七 玉の
第二十八 商人
探偵小說完

修身畫談

全十卷 合本上下二冊 菊版美本實價八錢 郵稅一錢 廿五錢

世間の修身書多しと雖も兒童の心に面白き者ならでは飽きて觀まざるの遂あり給りて中庸を外れたる狂漢等人の行を記したる書は深白にして他の色に染み易き少年の天性に對して教化の目的を誤まること勝がらず此書は文明の時世に適當なる面白き立志修身の談を和漢洋の歷史富書等に求め平易の文體を綴み假名を施し圖畫を挿み少年をして觀んで倦まざるの間に不知不識種性を養ふの目的にて編輯したるものなれば學校の教授に於ては補助の教育を任とする父兄は毎月必ず一冊を購ふて兒童の教導に備へ給はんことを乞ふ。

幼稚園

四六版美本 實價各七錢 郵稅各二錢

○支那征伐手柄はなし 全二冊
○歷史繪はなし 全二冊
○修身繪はなし 全二冊
○鳥づくし 全一冊
○獸づくし 全一冊

日清交戰錄

日清交戰錄補遺

齋版 全四冊合本 挿畫二百餘 實價全部四拾錢 郵稅別 減價一圓四拾錢 送料四拾錢

全二冊合本 實價四拾錢 郵稅別 減價三拾錢 貳錢 送料六拾錢 頁 挿畫 減價拾錢 數十集

本書は京城の小戰より始り牙山平壤豐島海洋旅順威海衞等の海陸戰を詳記し大總督府凱旋を以て收まる補遺は新領地臺灣の授受より土匪掃蕩の戰記等一つも餘すなし國民の血潮外人の觀察敵國の內情等部門を分つて記述し合本には總目錄を付して索引の便を與へ寫眞版は戰地の光景軍士の肖像を示し挿畫は桂舟永洗華邨三畫伯の傑筆になる好畫題を描きたる眞畫なり。

新小說

幸田露伴編輯 逐次發行 實價一冊十五錢 郵稅各二錢

文界の風雲漸く起りて花笑ひ鳥唄ふの好季節を卜して本書は毎月一回發行の目的を以て江湖に出でたり書中の是非は敢て自から贊せず編輯主任は斯文の大家幸田露伴子にあり其の選に上るものの元より吹々辯を費やすを要せざるなり試みに一本を購つて其の眞味を掬し玉へ。

珍書百種

宮崎三昧編輯校訂 逐次發行 菊版美本 實價十二錢 郵稅四錢

此書一たび出でゝ鬼神哭せず山川撼かず天翼を降さず雨も降らず風も吹かず至て平穩上日和なり之を平凡といへば賊に平々凡々一向詰らぬ詮議なり但一たび此書を繙く者は再び手を釋く能はざる面白味あるべん。

古今史譚

樂良子俗潤生合著

全五冊 全部一千一百頁 餘實價 每冊金三十錢 郵稅各八錢 合本全一冊 實價金一圓 郵稅十五錢

古今史譚は樂良後潤二先生が博引宏證殷く諸家の秘錄をかり之に自家の學識を加へて尤も眞率に古今の史乘の誤を正し落ちたるを補ひたるものなり。

寫眞畫報

全廿冊 號外一冊發行

初め戰國寫眞畫報と題し第一卷は明治二十七年十月より發行せる者にして小川一眞氏及堀健吉氏の寫眞彫刻版を用ひ日清韓の人物景色風俗戰爭等の圖畫を掲げ之れに說明を加へたる者にして寫眞彫刻版(Photo-Engraving)の挿圖ある雜誌の嚆矢なり幹に其第五號には東京上野に於て行ひたる第一回祝捷會の寫眞のみを掲げ第十一號には京都名勝古跡及神社佛閣等を輯め第十二號は同地近傍近江大坂神戸播磨等の名所を輯め第十三號は大和奈良の名所を掲ぐ而して第十四號以下は範圍を擴張し世界の森羅萬象何くれとなく掲ぐるを主となし政治家軍人豪商紳士美女藝人より萬國の地理風俗等を網羅す挿畫の精美に說明の詳悉を作せ見れば之を掌に指すが如し。

全部上下二卷特別減價金二圓

郵稅一冊一錢五厘也

遞送料四十錢

美術書畫類目錄

海戰畫帖

若林大尉畫
全二冊
實價六十五錢宛
郵送料四錢宛

著者は常備艦隊の將校なり日清の役軍に從ひて怒濤澒波の間に敵の堅艦と戰ふもの數次其彼我奮闘の狀を直寫して水彩畫帖に上すもの實に數百葉の多きに至る弊堂特に氏に乞ひて之を岡村信陽堂に附して印行せしむ然れども製版頗る至難にして屢々挫折したりと雖も然も百難を排して第一卷黃海の卷を發兌し大いに大方の喝采を得たり我艦隊々伍整々として進むの間敵艦漸く來り忽ち鹿山沖の大快戰を現じ來る第二卷威海の卷は我軍大勝電艇夜襲を試いて北洋水師殲滅の慘狀盛み見るが如し。

中野其明編輯

尾形流印譜

日本美紙木版摺本
實價廿五錢
郵稅四錢

尾形流百圖

日本紙木版摺上下二冊
實價六十錢
郵稅八錢

激戰中 平壤之眞景

寫眞版廿二圖入
全二冊各一冊
定價金四十錢

上卷目次

野津陸軍大將
大島陸軍少將
立見陸軍少將
平壤城內市街圖
從軍大同江之圖
混成旅團大同江之圖
從軍角島下之圖
平壤城外大同江之圖
立見丹軍之兵營圖
土[illegible]大院君[illegible]圖
從村[illegible]東[illegible]圖
從外[illegible]北[illegible]圖
[illegible]平[illegible]圖
北征[illegible]者

下卷目次

山川島陸軍[illegible]
小站陸軍中將
兵[illegible]陸軍大將
混成旅團部之圖
船橋里恩士之圖
全五師團後之圖
於[illegible]居本部之圖
大同江[illegible]詳圖
平[illegible]方[illegible]
下野[illegible]
殿[illegible]
[illegible]之新兵

占領地眞景

盛京省之內
全一冊横本
寫眞銅版廿圖入
定價四十五錢
郵稅四錢

征淸第二軍將校
花園口第二軍上陸
全 口第二師團
全 二聯隊
全 貔子窩第二軍
全 沖貔子窩北貨物
全 口碇泊之船
全 之市
金州城之景

金州砲臺
野戰砲兵北門
金州城北兵站
全 攻城之第二步兵
全 城際之聯隊
全 市北門之大隊
高家屯取砲兵
全 城南方伊[illegible]
大連灣內第二軍司令部

日清戰爭繪卷

鈴木華邨筆
遲塚麗水說明
實價一冊廿五錢
郵稅金二錢

第一卷目次 京城之卷

其一 登山夜景
其二 仁川上陸
其三 韓廷改革
其四 京城衝突
其五 韓兵逃走
其六 危機一髮
其七 島軍入城
其八 島軍守衛圖
其九 王妃憂圖
其十 國家滅亡
其十一 朝鮮風俗
其十二 [illegible]世[illegible]

第二卷目次 豐島之卷

其一 豐島海戰
其二 操江捕獲
其三 全[illegible]
其四 高陞撃沈
其五 乘組員救護
其六 [illegible]乙[illegible]
其七 佐世保病院
其八 濟遠逃走
其九 濟遠航行
其十 高陞事件取調

第三卷目次 成歡之卷

其一 龍山露營
其二 公使歡送
其三 張[illegible]雨
其四 糧食徵發
其五 將校偵察
其六 安城夜渡
其七 白衣探者
其八 松崎大尉戰亡
其九 成歡戰
其十 勇喇叭卒
其十一 兩將校
其十二 成歡大勝

第四卷目次 牙山之卷

其一 敵將[illegible]
其二 殘兵遁逃
其三 我軍入牙山
其四 牙山占領
其五 牙山凱旋
其六 敗[illegible]破
其七 [illegible]凱旋
其八 鹵獲利品
其九 兩將連騎
其十 船長決死

第五卷目次 平壤之卷上

其一 京城
其二 有栖川宮
其三 大[illegible]進發
其四 成歡砲擊
其五 臨津江渡軍
其六 黃州小戰
其七 斥候殉國
其八 殉國勇士
其九 東岡林平
其十 船橋里激戰
其十一 野戰病院
其十二 林大尉

第六卷目次 平壤之卷下

其一 伊藤總理大臣
其二 野津師團長
其三 勇士奮戰
其四 朝鮮支那聯盟
其五 牡丹臺攻擊
其六 左寶貴戰死
其七 勇士[illegible]玄武門
其八 立見少將敵將
其九 [illegible]州[illegible]兵
其十 平壤之陷落
其十一 俘虜
其十二 清將[illegible]

第七卷目次 黃海之卷

其一 海軍根據地
其二 西鄉海軍大臣
其三 黃海大海戰
其四 比叡號火災
其五 決死守火藥
其六 西京丸苦戰
其七 樺山海軍中將
其八 [illegible]號沈沒
其九 定遠火災
其十 赤城苦戰
其十一 [illegible]死[illegible]
其十二 [illegible]手[illegible]
其十三 沈沒[illegible]破
其十四 [illegible]中[illegible]

第八卷目次 遼東之卷

其一 大山大將出陣
其二 [illegible]仁親王殿下
其三 [illegible]偵察
其四 大軍徒涉
其五 鴨綠江渡河
其六 虎山大戰
其七 閑院宮
其八 九連城攻擊
其九 我軍入九連城
其十 大東溝占領
其十一 鳳凰城占領
其十二 安東縣民歡迎
其十三 桂大將
其十四 [illegible]州騎兵

第九卷目次 旅順之卷

其一 山地師團長
其二 乃木少將
其三 [illegible]
其四 第二軍上陸
其五 哨兵[illegible]
其六 金州城攻擊
其七 金州[illegible]
其八 斥候[illegible]
其九 和尚山占領
其十 小野口奮戰
其十一 騎兵[illegible]
其十二 椅子山攻擊
其十三 旅順市街戰
其十四 旅順占領
其十五 [illegible]
其十六 [illegible]之[illegible]

從征畫稿

全四冊
渡邊非忠畫
大判六枚一冊
實價一冊三十錢
郵稅四錢

本書は畫伯渡邊非氏朝鮮平壤の役に第一軍に從軍し其後轉じて第二軍に從ひ花園口上陸以來旅順に至る數閲月作圖の原料に充んため日々目擊せる實況を寫生し積んで數百枚に上れり弊堂同氏に乞ひて修飾出版せんと思ひ立ちたれ共原圖は畫と戰地倉卒の際筆を走らしめしものゝを修飾するは却て其趣致を減却するの恐れありとて一も改變する所なく直に彩色石版に付したり故に製版大に困難にして漸く花園口より旅順迄の戰況數十枚を印刷して四卷となし廣く世の愛國の諸彦に頒つ

美術名印部類

川崎千虎 松尾四郎 合著

國風畫の部
實價三十錢
郵稅四錢

此書は編者が多年苦心經營して本朝美術家の落款印影を描寫集聚したるものなれば其精密正確なること固より言を待たず先第一書に國風畫則ち巨勢春日土佐住吉板谷等の系圖を掲げたれば美術家たるもの及好古家たるもの必ず坐右に缺くべからざる一大珍書なり。

凱旋土産

縮寫用奏稿寫眞版四枚洋紙一枚摺紙頁版半光沢紙一尺一寸幅一尺一寸三分實價八錢 二錢

◎大元帥陸下御尊影 ◎皇太子殿下御尊影

◎海軍大將小松宮殿下 ◎陸軍中將北白川宮殿下 ◎故陸軍大將有栖川宮殿下 ◎陸軍少將伏見宮殿下

◎海軍少佐閑院宮殿下 ◎陸軍少將有栖川宮殿下 ◎山階宮殿下 ◎海陸將校 ◎海軍大將西郷從道 ◎海軍大佐有栖川宮殿下 ◎陸軍大將野津道貫 ◎陸軍中將桂太郎 ◎陸軍大將大山巖 ◎陸軍中將山縣有朋 ◎陸軍少將小川又次 ◎陸軍少將大島義昌 內閣諸公 ◎內閣總理大臣伊藤博文 ◎內閣正 ◎外務大臣陸奥宗光 ◎文部大臣西園寺公望、 ◎前大藏大臣渡邊國武 ◎農商務大臣樺山資紀 ◎司法大臣芳川顯正 ◎前逓信大臣溝口直亮 ◎陸軍大臣桂太郎 ◎海軍大臣樺山資紀 ◎海軍大臣西郷從道 ◎前逓信大臣溝口直亮 ◎特命全權公使井上馨

美術畫

廣幅大判壓一尺六寸幅一尺一寸 奉書極彩色
實價各金十二錢
郵稅二錢

目次

○第一號 長澤蘆雪眞筆 丹鶴愛雛鳥之圖
○第二號 狩野越前守法眼元信筆 玄宗皇帝楊貴妃之圖
○第三號 明者不詳筆 產女粧扮無僧之圖
○第四號 狩野雪信女子眞筆 美人之圖
○第五號 英一蝶眞筆 獅子一蝶遊戯之圖

美術世界

渡邊省亭畫
全部廿五卷
半紙摺美本

美術世界は木版彩色摺を以て極めて鮮明美麗に印刷する繪畫雅書に優へ彫工の苦心摺師の手際緻密巧妙を極めざるはなし謹つて摺高の加はるに從ひ版木の磨滅を免かれざるを以て板おろしの當盡に摺立てたるものと數千部を摺立てたる後の物とは其の緻密巧妙の上に於ておのづから其出來榮を異にせざるを得ずされば彫刻彩色の精巧果して弊店の標言に過はざるや否やは本書御一覽の上御判定下され速かに御注文ありて可成初刷の美麗精巧無類飛切なる向を御購求被下候樣謹み廣告仕候

各一冊實價三十錢郵稅一冊に付四錢郵券代用は壹割增

◎全部廿五卷御注文は金七圓郵稅八拾錢

海軍畫話

石版彩色入
實價二十錢
郵稅四錢

海軍大尉若林欽君畫及說明

國民一般に海事思想に乏く海軍事理を解せざる如き傾向あるは弊堂の常に遺憾とする所なり今や文運日進の時に際し有識の士は海軍力の重大なる國防上片時も忽にすべからざるを知ると同時に帝國軍艦の稍少數にして邊海の防備未だ完成せざるを嘆せずんはあらず然りと雖とも非の成るは成るの日に成るに非らず必ず由て來る所あり大河の汪洋は源泉の滾々に起る帝國海軍の膨脹擴張を望まんには表面的當局者の奮發企計に由ると雖とも又自ら國民の腦裏に海事教育を注射せしむるの必用あり。弊堂の本書を編せる實に此目的に出でたれば軍艦兵器は勿論水兵日常の勤務動作艦內操練の一斑操砲水雷等一々描寫し兒童と雖とも一目瞭然直に海軍の事理に通ぜしめ以て他日の海國民の原素たらしめん事を期す

醫學一部 男女交合新論

全一冊 百六十頁 金十錢 郵稅四錢

本書は既に現法醫學士山崎佐博士なる著名なる新刊醫學書出版致し直に愛讀者へ発賣の安き為め即り成り候間し驚嘆御問合せ及び御申込の上御買求被なる為御注意願上候

●目錄●第一交媾は殺し實驗すべし●第二愛情は他人と交媾せんとの欲望に依て相愛者媾を具に す●第三交媾に男女の機能愛情及び媾烟の術動たり●第四交媾の時期及び其方法●第六同性の形狀性質等は其兒に遺傳す●第七女母たるべき者は未生兒の頃に其才能行狀を監養すべし●第八媾神の愛は殺生に必要なり●第九媾神の愛を以て交媾は遊戯の爲になす交媾よりも許多の快樂を生ず●第十媾神の愛は淫慾を驅し洞慾は媾神の愛を驅す●第十一愛情と生殖慾とは相感應す●第十二愛情する人には陰具勃興し感應する人には陰具勃興す●第十三愛情と交媾とは必ず相伴ふ●第十四甲に愛情ありて乙と交媾するは義理を違ひ情慾を強動すべし●第十五情慾は媾生に必要なり●第十六交媾には男女とも愛に子は男子をして情慾を發動せしめ生殖の功を遂る機能を具ふ●第十七女子は男子をして情慾を生ぜざれば男女共其害を受く●第十八女子の情慾少き理由及び過多強生ぜしむる方法●第十九交媾の時女子愛情を生ぜざれば男女共其害を受く●第廿男女性情を交換せざれば激惡を生ず●第廿一多淫の夫に惡性の百●第廿二女子の情慾少き理由及び過多強生ぜしむる方法●第廿三孕胎の後は交媾すべからず●第廿四新婚の夫婦に惡習の百●第廿五父母の愛に因て男兒は女兒を生ず得べき法 附雙生子の說●第廿六陰生に可なる日時を撰ず●第廿七交媾に付ての注意●第二十八交媾は全身の作用を促動す●第廿九媾神の感激と激動とは殺生に害あり●第卅情慾を節制するは害あらざる說●第卅一陰陽の交媾は協すべからず●第卅二愛を害ふる害を論ず●第卅三陰部は天性に背く事●第卅四委縮を起へる害を論ず●第卅五媾神の愛は陰部の其法なる事●第卅六子なき原因及び其治法に關す●第卅七陰部解剖の事及び其効用●第卅八精蟲の說●第卅九陰丸、睾丸及び其効用●第四十陰莖の構造及び其効用●第四十一尿道と陰莖の構造及び其効用●第四十二陰囊と包皮との構造及び其効用●第四十三子宮の構造及び其効用●第四十四陰道の構造及び其効用●第四十五卵巢卵管の構造及び其効用●第四十六男女の陰具は互に働く適合す●第四十七陰具の配置は全身の作用を起す●第四十八腦力は交媾に必要なり●第四十九孕胎の說

通俗 男女自衛論

合冊 實價十八錢 一冊 郵稅四錢

卷之一 房事の事

卷之二 手淫及多淫の害

卷之三 遺精生殖無功并に生殖不能の論

卷之四 淋病、梅毒、尿道狹窄、勝胱疝痛、睾丸腫及勝胱癌の病

卷之五 婦人手淫の害

210.58
To376b

001995−001−3

210.58−To376b

幕末小史

戸川　残花（安宅）／著

M31−32

ACB−5076